



平成 28 年 11 月 22 日

しののめ信用金庫 上半期決算概要を公表

貸出金、預金とも堅調に増加し、当期純利益 1,131 百万円を確保

- ▼ しののめ信用金庫（群馬県富岡市 理事長 横山 慶一）は、平成 28 年度上半期決算概要を公表するとともに、「平成 28 年度経営内容の中間報告（平成 28 年 9 月 30 日現在）」（半期ディスクロージャー誌）を開示しました。
- ▼ 貸出金は、積極的な提案営業に取り組み、医療介護など成長分野を含む事業性資金および住宅ローン、消費者ローンなどの個人融資を中心に前期末比で 104 億 37 百万円（2.42%）増加し、441,641 百万円となりました。預金は、個人、法人ともに流動性預金を中心に前期末比で 239 億 23 百万円（2.55%）増加し、959,539 百万円でした。地域経済の低迷が懸念されているなか、貸出金、預金ともバランスよく堅調に増加しています。
- ▼ 損益について、大規模金融緩和、マイナス金利政策等の影響もあり、貸出金金利や市場金利の低下による貸出金利息、預け金利息、有価証券利息配当金等の減収を主な要因として、業務収益は前年同期比 212 百万円（3.06%）減少し、6,731 百万円となりました。業務費用は、前年同期比 16 百万円（0.30%）と微増に留まり 5,326 百万円となりました。その結果、業務純益は前年同期比 228 百万円（14.01%）減少し 1,404 百万円となりました。本業での収益力を示す実質業務純益（業務純益+一般貸倒引当金繰入額）は、前年同期比 170 百万円（11.00%）減少、コア業務純益（実質業務純益-国債等債券損益）は、343 百万円（32.28%）減少し 721 百万円となりました。

国債等債券売却益、償却債権取立益、役員取引等収益が増加した一方で、貸出金利回りの低下等により資金運用収益が減少した結果、当期純利益は前年同期比 122 百万円（9.77%）減少し、1,131 百万円となりました。
- ▼ 自己資本比率は国内基準で求められている 4%を上回る 7.85%（前年同期比△0.04%）となりました。コア資本（分子部分）は当期純利益 1,131 百万円を確保したものの、分母となる貸出金や有価証券のリスクアセットが増加したことが主な要因です。



- ▼ 金融再生法に基づく開示債権（不良債権）は、17,020 百万円、その内訳は「破産更生債権及びこれらに準ずる債権」が 3,811 百万円、「危険債権」が 12,594 百万円、「要管理債権」が 614 百万円。金融再生法上の不良債権額は、前期末比 109 百万円減少となりました。その結果、不良債権比率（金融再生法に基づく開示債権比率）は、3.84%と低い水準であり貸出資産の健全化が図れています。

前年同期（平成 27 年 9 月期）との増減を、主な開示項目ごとに表でまとめると以下のとおりです。

金額単位：百万円

開示項目	27 年 9 月期	28 年 9 月期	増減値	増減率
預金積金残高	950,987	959,539	8,551	0.89%
貸出金残高	428,693	441,641	12,947	3.02%
業務純益	1,633	1,404	△228	△14.01%
実質業務純益	1,550	1,380	△170	△11.00%
コア業務純益	1,065	721	△343	△32.28%
経常利益	1,412	1,236	△175	△12.44%
当期純利益	1,254	1,131	△122	△9.77%
金融再生法に基づく開示債権（不良債権）	18,925	17,020	△1,905	△10.06%
開示債権比率（不良債権比率）	4.40%	3.84%	△0.56	—

（計数については単位未満を切り捨てて表示しています。）

当金庫は、平成 28 年度上半期の経営内容を開示したディスクロージャー誌を作成し店頭
に備え置くとともに、ホームページ上でも同じ情報を開示いたします。